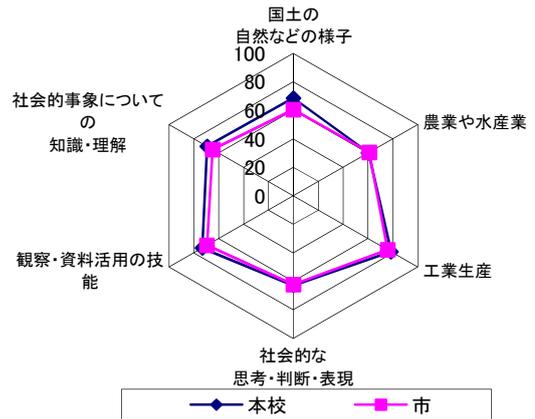


宇都宮市立岡本小学校 第5学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	国土の自然などの様子	68.5	60.4
	農業や水産業	60.3	61.0
	工業生産	78.5	75.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	62.8	62.2
	観察・資料活用 of 技能	73.2	69.4
	社会的な事象についての知識・理解	69.3	65.0



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然などの様子	<p>・平均正答率は宇都宮市よりも上回っている。特に、大陸や主な海洋の名称・位置、日本の近隣の主な国の名称・位置などについての定着度が高い。ただ、日本の主な地形や、土地に合わせた人々の工夫についての理解がやや不十分である。</p>	<p>・国土の地形や気候に対する関心を高め、地形条件や気象条件に適応しながら生活をしている人々の工夫について、関連づけながら学習が進められるよう工夫する。</p>
農業や水産業	<p>・平均正答率は宇都宮市よりもやや下回っている。特に日本の水産業に関する問題の正答率が低い。反面、輸出や輸入を含めた日本の食料生産についての正答率は、宇都宮市よりやや上回っている。</p>	<p>・社会の授業だけでなく、日常生活の中で食料生産への関心を高めたり、農業・水産業に関する重要事項を復習したりし、定着度を高める。</p>
工業生産	<p>・平均正答率は宇都宮市よりも上回っている。特に日本の自動車工業の様子や工夫、工業地帯や工業地域、工業生産についてはおおむね理解していると言える。ただ、輸入品の変化について、その背景を複数の資料をもとに判断する問題では、宇都宮市の平均正答率よりやや高いものの、約39%と低い正答率を示している。</p>	<p>・資料を読み取る学習をこれまで以上に充実させる。その際、読み取った事実からその理由を考えさせたり、複数の資料から関連を考えさせたりする学習を取り入れ、多面的なものの見方や考え方がもてるように工夫する。</p>